

聖カタリナ女短大 白石 方子

1. 被服構成技術指導においては、初歩技術面から、各個人に徹底的に理解させることの重要性が基盤となることが一般方法とされていることは勿論であるが、反面には何人かで力を合わせて、一致して縫製するところの協力裁縫は、教室内で限られた時間を有効に、全体的関連性を持ちながら、数多くを習得することのできる、責任ある協力がもたらすこの方法となり、遅速とか理解の程度の個人差を相補正し、進展する部面のあることを4回実験したものに続く研究で今後もこの縫製のあり方を一方法として検討し効果あるものとして役立てたい。

2. 被験者、本短大2年、48名、試料、大裁単長着男物縞大綿12枚、パジャマ6歳男児用10枚、実験方法としては①、習得条件としては②、を取扱い完成実験後の理解反省を調査検討した。

3. 効果的に実績をあげ得た事実を認めることができた。作業態度を合理的に、各人の長所をいかしつつ協力しての縫製力、基礎に横たわる問題を研究し、教室内で実施可能な内容の限界を検討しつつ材料と技術のあいまつところをみきわめることができた。